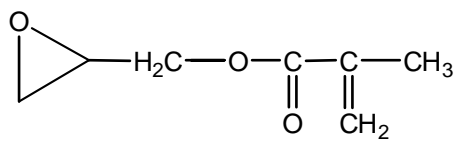


化学物質安全性(ハザード)評価シート(要約版)

整理番号	2000 - 38	官報公示 整理番号	2 - 1041(化審法) 1 - 316(化学物質管理促進法)	CAS 番号	106 - 91 - 2
名 称	メタクリル酸 2, 3-エポキシプロピル 別名：メタクリル酸グリシジル GMA		構造式		
分子式	C ₇ H ₁₀ O ₃		分子量	142.15	
市場で流通している商品(代表例) ¹⁾ 純 度 : 99%以上 不純物 : 不明 添加剤または安定剤：ヒドロキノンモノメチルエーテル					
物理・化学的性状データ 外 観：無色液体 ²⁾ 融 点：-41 ³⁾ 沸 点：196.8-197.9 ²⁾ 引 火 点：84 ⁴⁾ 発 火 点：文献なし 爆発限界：文献なし 比 重：d ₅ ²⁵ 1.073 ⁴⁾ 蒸気密度：4.90(空気 = 1) 蒸 気 圧：82.93 Pa(0.622 mmHg)(25 ³⁾) 分配係数：log Pow ; 0.73(計算値) ⁵⁾ 加水分解性：加水分解を受けやすい化学結合あり(エポキシ結合) ²⁾ 解離定数：文献なし スペクトル：主要マススペクトルフラグメント m/z 39(基準ピーク, 1.0)、41(0.90)、69(0.87) ⁶⁾ 吸脱着性：該当せず 粒度分布：文献なし 溶解性：メタクリル酸 2, 3-エポキシプロピル/水 ; 5-10 g/L(20 ³⁾) ヘキサン、クロロホルム、アセトニトリル、メタノールなどの有機溶媒に易溶 ²⁾ 換算係数：1 ppm = 5.91 mg/m ³ (気体, 20 ³⁾) 1 mg/m ³ = 0.169 ppm					

総合評価

1) 危険有害性の要約

ヒトにおける急性、慢性及び発がん性影響についての報告はなされていない。実験動物では急性毒性として中枢神経系への影響、皮膚及び眼に中等度の刺激性がみられ、反復暴露では前胃や腎臓に対する影響が示されている。変異原性・遺伝毒性に関して *in vitro*、*in vivo* の試験で陽性の結果が報告されているが、ヒト及び実験動物での発がん性試験の報告はない。生殖・発生毒性試験において精子に影響がみられている。

本物質は環境中に放出された場合、水圏では生分解されやすい。大気中では OH ラジカルの反応及びオゾンとの反応が関与しており、半減期はそれぞれ数時間及び 1 日と計算される。環境省のモニタリングでは検出されることがない。水圏環境生物に対する急性毒性についてはデータがない。

2) 指摘事項

- (1) 変異原性試験は *in vitro*、*in vivo* とも陽性の結果を示している。
- (2) 実験動物で中枢神経系への影響、皮膚及び眼への中等度の刺激性がみられている。
- (3) 生殖・発生毒性試験で精子に影響がみられている。
- (4) 化学物質管理促進法の第一種指定化学物質に指定されており、排出量の管理が必要である。

参考資料

- 1) (社)日本化学工業協会調査資料(2001).
- 2) 通産省化学品安全課監修, 化学品検査協会編, 化審法の既存化学物質安全性点検データ集, 日本化学物質安全・情報センター(1992).
- 3) Phys Prop Database., Syracuse Research Corporation.
- 4) Hazardous Substances Data Bank(HSDB), U.S. National Library of Medicine(1998).
- 5) 分配係数計算用プログラム“C Log P”, アダムネット(株).
- 6) NIST Library of 54K Compounds.